

《担当者名》 下村敦司 shimo@hoku-iryu-u.ac.jp 才川悦子 永見慎輔 入江一元 洪井徹 高橋昌己

【概要】

第1学年で修得した解剖学の知識と理論を体系化する。さらに、人体解剖見学により、人体の3次元構造を理解する。これらを通して、実学としての解剖学“臨床解剖学”を学ぶ。また、人体解剖見学を通じて、医の倫理について考察する。

【学修目標】

<一般目標>

将来、言語聴覚士として正確かつ適切なりハビリテーションを実施するために、臨床解剖学的考え方を学び、言語聴覚療法の理論を理解する。また、医療者として必要な医の倫理観を身につけるために、人体解剖見学を通じて、生命の尊厳について理解する。

<行動目標>

1. 頭頸部の3次元的配置と構造について説明できる。
2. 頭頸部器官の構造的特徴を知り、生理機能について説明できる。
3. 頭頸部器官の構造・生理の異常が機能に及ぼす影響を推論できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 10	解剖と言語聴療法	・解剖を通じて言語聴覚障害学に触れる。	永見慎輔
11	人体解剖見学ガイダンス	・人体解剖見学の注意事項を説明する。 ・献体について学ぶ。 ・生命の尊厳について学ぶ。	下村敦司
12) 14	人体解剖見学	・系統解剖を見学する。 ・実際の人体を観察し、発声・発語器官および摂食・嚥下器官の位置や構造、さらにこれらを支配する神経の走行を確認する。 ・実際の人体を観察し、中枢神経(大脳、小脳、橋、延髄、脊髄)の構造を確認する。	下村敦司 才川悦子 永見慎輔 入江一元 洪井徹 高橋昌己
15	まとめ	・講義の総括をする。	永見慎輔

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

人体解剖見学の感想文 30%

レポート 70%

レポートで多かった誤り、特徴的な問題点について講義内で解説する。

【教科書】

「解剖生理学」および「解剖生理学」で配布した資料

福岡 達之 編 Crosslink 言語聴覚療法学テキスト発声発語・摂食嚥下の解剖・生理学 メジカルビュー社 2022年

【参考書】

Michael Schuenke 他 著 「プロメテウス解剖学アトラス 胸部/腹部・骨盤部 第3版」 医学書院 2020年

Michael Schuenke 他 著 「プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第3版」 医学書院 2019年

Frank H. Netter 著 「ネッター解剖学アトラス 原書第7版」 南江堂 2016年

Richard L. Drake 他 著 「グレイ解剖学 原著第4版」 エルゼビア・ジャパン 2019年

【備考】

1. 第12～14回 人体解剖見学は3～5講目に開講する。

2. 人体解剖見学の受講には、人体解剖見学ガイダンスを受けること、さらに実習後の感想文の提出を必須とする。ガイダンスの日時は掲示等で発表される。

3. 授業に関わる連絡、授業資料の配信、学習課題の提示
 - ・ 授業に関わる連絡はmanabaさらにi-Portalを利用する。
 - ・ 資料の配信はGoogle Classroomを利用する。
 - ・ 学習課題の提示はGoogle Classroomを利用する。
4. 授業に関する意見交換
 - ・ manabaまたはGoogle Classroomを利用する。
5. 授業の理解度把握
 - ・ manabaのアンケート機能を利用する。

【学修の準備】

予習は、次回の授業範囲の参考書や配布資料を熟読する。また、理解不足の点はチェックしておく（80分）。
復習は、参考書や配布資料に基づき、または実習を通して学習し、十分に理解を深める（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

才川悦子（医師）、永見慎輔（言語聴覚士）、入江 一元（歯科医師）、渋井 徹（歯科医師）、高橋 昌己（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

才川悦子、永見慎輔、入江 一元、渋井 徹、高橋 昌己：病院での実務経験を活かして、解剖と臨床の接点の理解が深まる講義を行う。